

漁況予報 い わ し

第218号

【2020年3～4月漁期】

※1 平年：過去5年平均

※2 被鱗体長：口先から尾ビレの付け根までの長さ

= 概況 =

【マイワシ】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、1月は20トンで、前年（10トン）を上回り、平年^{*1}（50トン）を下回りました。2月は24トンで、前年（13トン）および平年（10トン）を上回りました。

魚体は、15-20cm（被鱗体長^{*2}以下同）の2018年生まれの2歳魚が主体でした。

なお、漁業調査指導船「江の島丸」が1-2月に利島周辺海域でさば資源調査を行った際、昨年につき18-22cmモードの成熟した大羽マイワシが多く混獲され、今年も産卵のために集群していることがうかがえました。

【カタクチイワシ】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、1月は32トンで、前年（1.7トン）を大きく上回りましたが、平年（44トン）を下回りました。2月は1.7トン（速報値）で、前年（35トン）および平年（373トン）を大きく下回りました。

佐島地区（1ヶ統）のまき網では、餌イワシとして散発的に漁獲がありました。

魚体は、8-12cmの1、2歳魚が主体となりました。

【シラス】

前号でお知らせしたとおり、当センターでは、シラス船曳網漁業連絡協議会の協力を得て、今年もシラスの禁漁期間中（1月1日～3月10日）に、相模湾内で試験操業を実施しました。1月は広い範囲で魚探反応があり、最も多くの漁獲があった鎌倉ではマシラスが主体でしたが、そのほかの海域ではウルメシラスかカタクチシラスが主体となりました。2月の調査では特に東側の海域で反応は減り、茅ヶ崎港周辺でカタクチシラスとウルメシラス主体の漁獲となりました。3月の調査では東側の海域で反応はなく、西側では江ノ島以西の広範囲でばらけた反応があり、引地川河口西側でマシラス主体の漁獲がありました。

調査の結果から、解禁直後の漁は厳しいと見られますが、沖合域に多くいると考えられるマシラス、その後主体となるであろうカタクチシラスの漁場への加入に影響する海況変動次第で、漁の好転もあるでしょう。

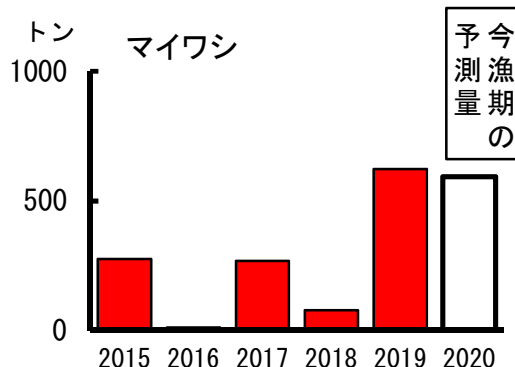
= 予 報 =

【マイワシ】

今漁期は、引続き 2018 年生まれの中羽が主体となるでしょう。4月に入ってから、ヒラゴの早期発生群の漁獲があるでしょう。

今漁期の漁獲量は、暖水波及等の海況条件により大きく左右されますが、前年並の約 594 トンと予測されます。

過去 5 年の 3・4 月漁期の漁獲量と今漁期の予測量

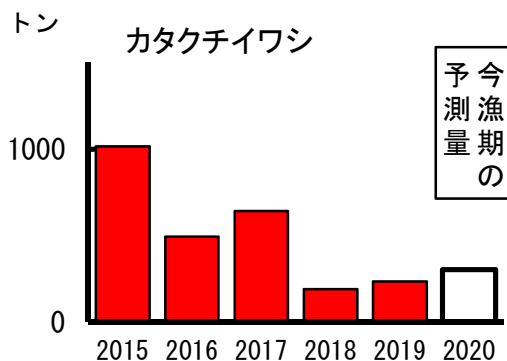


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【カタクチイワシ】

今漁期は、引き続き 2018,2019 年生まれの成魚～小型成魚 (9～12cm) が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、1 - 2 月の県内主要定置網の漁獲量から、前年を上回る約 304 トンと予測されます。



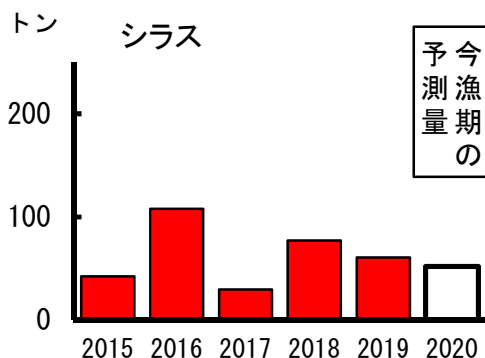
※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【シラス】

今漁期は、2月以降生まれのマシラス主体の漁模様となり、その後、カタクチシラスが増えてくるでしょう。

相模湾内の水温は 14～16℃台とシラスの来遊・滞留には良い環境にあります。

今漁期の漁獲量は、親魚との関係から前年をやや下回る約 52 トンと予測されます。



神奈川県水産技術センター栽培推進部
三浦市三崎町城ヶ島 (046) 882-2314